



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第
3号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第3号). 泌尿器科紀要 2004, 50(3): 228-228

ISSUE DATE:

2004-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113319>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

先日の某新聞のサイエンス欄に、ミツバチには「覚悟」遺伝子が働いているという興味深い結果が東大の動物科学の研究チームから報告されたと出ていた。

ミツバチはスズメバチを近寄らせると通常は逃げるが、ミツバチの中でも巣の番をする「門番バチ」は、スズメバチの攻撃にも果敢に立ち向かっていく習性があるのだそうだ。アリやハチなどのような社会性を持つ生物に見られるいっけん利他的に思えることのような行動も、ダーウィンの進化論では種の保存に有利に働いていると考えられている。東大の研究チームは、この攻撃性の高いミツバチの脳ではA型肝炎ウイルスに似た配列を持つ遺伝子が働いており、これが門番バチの本能行動に影響を与えていることを確認したとしている。そして、このウイルス由来と考えられる遺伝子を「カクゴ（覚悟）」と名付けたようだ。

医師や政治家、そして一部の養鶏業者の責任のない行動が次々と報道されている。日本人全体に他人任せ、無責任が蔓延している。我々の脳にも「カクゴ」をのせたウイルスを感染させる必要があるのかもしれない。

(小川 修)